

研究通信

NO. 6

11月26日(木)1年生の教室で算数の実践提案授業が行われました。

学び合い入門期からの計画的な指導の在り方を考える ～1年生の算数の授業から

◆授業者	武井 美香
◆日時	平成27年 11月26日(木) (3校時)
◆教科等	1年算数
◆単元名	どちらがひろい
◆目標	身の回りにあるものの面積に関心を持ち、任意単位のいくつ分かで比べることができる。

《本時で取り組む「学び合いを深めるための手立て」》

ア) 学び合いの場面の設定

- ・自分の考えたことをグループの中で言えるようにする。
- ・友だちの考えをよく聞く。
- ・自分の考えと比べながら聞き合う。

エ) 個人の考えを持たせる工夫

- ・個人で作業させることで自分の考えを持てるようにする。

ケ) 見通し→ふり返りやまとめを授業の中に位置づける。

- ・本時を振り返ることにより、本時の学習をより意識させ深めていく。



昨年度の実践の反省を生かし、今回は同じ単元を2時間扱いとし、より子ども達が主体的にじっくり考えて学習できるように授業が構成されていた。児童の思考のテンポに合った授業の流れであり、1年生ながら課題への興味をもって、大変意欲的に学習に取り組んでいた。

研究会や参観者の感想からは、特に以下のようなことが話題となり、学び合いの入門期からどのような取組が必要なのか明らかになった授業研究会となった。

児童の様子

- 学習リーダーの動き・班活動への机の移動等、今までの学習で培われた**学習の仕方の下地ができていた**。作業や班の話し合いにも意欲的に取り組んでいた。また、1年生なのに長い時間よく集中できていた。
- 発表する言葉や様子などから、今までの取組で**着実に言葉が耕されてきている**ことを感じた。

☆自力解決

自分の考えを持たせるための手立て

- 個人で考えて自力解決する時間が十分あり、一人ずつ折り紙を使っていろいろ試しながら、じっくり考えることができた。その中で本時の課題解決に必要な2段階の作業を見つけた児童も多かった。また、付箋紙で**自分の考えと理由を記入する道筋を示し、言語活動につなげた方法が効果的**で、個人の考えをもち、さらにグループの中での発表に生かすことができた。

☆グループでの発表

- グループでの話し合いはまだ始めたばかりだが、グループ活動の台紙に沿って、考えを発表し合い、学習リーダーの声掛けでグループの考えを一つにまとめようとする活動が1年生なりにできていた。

○直観的なとらえ方をしていた児童も、隣の友だちのやり方を見たり、グループで交流し合ったりする中で、よりよい考え方に気づき、考えが変わる様子が見られた。

△自分の考えを説明するとき、自分が作業した折り紙の実物も示しながら言うと、他の人にもわかりやすかった。

○1年生の今の時期の実態として、教師がグループ活動に介入してやり方を習得させていく段階だが、教師が各グループを回って、考えを整理したり、違いや疑問を掘り起こしたりすることで、子ども達の考えをうまく焦点化し、友だちの考えのより深い理解やグループの考えのまとめにつなげることができた。

⇒**今後も、思考の道筋を言語で伝えること、話し合いの初歩的な経験を1年生の段階から少しずつ積み上げていくことが大事である。**



☆全体での話し合い

○各グループでまとめた考えを、発言力がある児童を教師が補助しながら発表させ、全体へと広めていた。

・子ども達の作業した実物の折り紙を前で作業しながら見せたり、教師用に大きく提示したりしながら整理してやるとよりわかりやすくなる。

・友だちや先生の話を書くときには、手に持っているものを置かせるようにするとよい。

☆さらに新しい方法を知り、使えるようになる段階

○任意単位を設定して数えて比べることは、今までの学習過程から予想通り子ども達から出されることはなかったが、教師から提示された口をしきつめる活動をグループで試すことで、今までの直接比較がよく分かっていなかった児童にも納得がいくことができ、多くの児童にその有効性が実感された。

○自作のプリントもよくできており、**本時の目標は、達成された。**

見通し・まとめ・ふり返り

○教師の問いかけに、前時のふり返りや本時の方法の予想が児童からしっかり出ていた。それを参考に自力解決できていた。また、ふり返りもマークと学習感想は初めてだったが、**今日の自分の学習の様子を1年生なりに振り返り、友達のやり方のよさや自分とのやり方の違いに気づく感想も見られたので、今後積み重ねていくとよい。**

その他

・前回の3年生の実践でも話題になったが、本時の実際の活動と目標とが少しずれていた。今回の活動から考えるに目標は、「いろいろな方法を使って比べ方を考えることができる。」が適当だった。

・自力解決用の付箋、グループ活動の台紙、自作のプリント、チラシを敷き詰めた紙など、**教具が児童の実態に応じており、学習に必要なスキルを段階的に身に付けられるよう、よく工夫されていた。**

今までの実践の成果(わかったこと)と今後の実践における低学年ブロックの研究の課題

※ 低学年段階から、考える力・説明できる力を段階的につけていくことが大事。

※ ペア学習(小グループ学習)の中で、伝える・聴くがきちんと出来るようになること。そのためには、自分の考えをしっかりとつ、自分の意見を伝えられる、相手の話を共感的に受け止めて相槌や反応・質問ができるといったことを、教師がしっかり教え、意図的に培っていく必要がある。

※ 見通しをどのように持たせていくのか。(基礎基本の定着と学習環境づくり、目的意識と必然性)

※ 既習事項を生かす(0次の重要性)・・・学習掲示の重要性

※ 指導と評価の一体化・・・目標をどう設定するか。評価を次の指導や次時に反映させていくという視点。

※ 適用問題をどう取り入れていくか。

入門期の学び合いの指導についての貴重な提案をしてくださった武井先生、ありがとうございました。
(文責 斉藤)